

青年部 かわら版

山形県建設業協会鶴岡支部

青年部広報誌

第41号

令和5年7月5日発行

脱コロナ禍を迎えるにあたり

山形県建設業協会
鶴岡支部青年部部長
土岐 正行

令和5年度を迎え、皆様におかれましては、日々ご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。日頃より当青年部の活動につきまして、関係各位のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年度、鶴岡支部青年部第19代目の部長を仰せつかりました土岐正行でございます。1年間どうぞ宜しくお願いいたします。

去る5月8日を持ちまして、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ「5類感染症」に移行したことを受け、3年5カ月余りに続いた新型コロナウイルス感染症との辛い日々との戦いに一先ず終止符が打たれ、本格的なWithコロナの時代に突入いたしました。我々青年部は、この3年間様々な感染対策について、暗中模索を繰り返しながら、積極的に事業活動を展開して参りました。今年度は、過去の経験を活かし、青年部ならではの柔軟な発想と積極的な行動力で、コロナ禍前の水準まで事業活動数を引き上げていきたいと思っております。

さて、昨今全国各地で地震や異常気象等を起因とした自然災害が頻発しております

が、当該地域に焦点を当てると、令和4年12月31日の大晦日未明に、鶴岡市西目地内に、大規模な土砂災害が発生し、甚大な被害と尊い命が失われました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、そのご家族や被災された方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。こうした「自然災害の脅威」を年々強く感じると共に、地域の防災・減災への備えに加え、災害発生時における地元建設業が果たす役割は非常に大きく、今後も安全で安心な社会の構築に向けて、その責務が期待されているところでございます。当青年部員といたしましては「現地元建設産業の担い手」として、また「次世代の地域の担い手」として、より良い未来の構築のため、関係各位のご指導のもと、様々な事業活動に熱意を持って取り組んで参りたいと考えております。

現在我々を取り巻く環境といたしましては、ウクライナ侵攻やコロナ禍の余波を受け、物価の高騰に歯止めがかからず、人口減少・少子高齢化に伴う危機的な人材不足に加え、働き方改革の推進、賃上げ等、まさに変革時代の中枢におります。我々建設業界においては、その影響が非常に強く感じられ、特に人口減少が進む中での次世代担い手確保は、建設産業の存続・技術の継承等の観点から最優先すべき急務であると考えております。今後、建設業が成り立つ

ていくためには、「魅力ある建設業」を目指し、働き方改革の推進はもとより、地域社会の未来づくりの一翼を担うことで若者に夢や希望を与える産業であり続けるために、個々の企業の一層の取り組みに加え、業界全体や発注者・設計者・さらには地域などの様々な組織との連携による取り組みが求められていると思います。時代の転換期を迎えるにあたり、当青年部の重点事業であります高校生の現場見学会、高校生就業促進事業の意見交換会などにおいて、地域社会における建設業の役割や重要性、仕事のやりがい・魅力を伝えていくことは我々青年部の大きな役割であると考えております。また、コロナ禍の影響により新卒者の進路において、地元志向が強まっている傾向があることから、それらを認識し、地元就職へと導くことができるように今年度も担い手確保に向けた事業を鋭意展開し、将来に繋がる地元建設業の発展に貢献していく所存でございます。

最後になりますが、建設業協会の親会をはじめ、ご支援・ご協力を頂いております関係機関の皆様に対し御礼を申し上げますとともに、諸先輩方がこれまで築いてこられた歴史や伝統を引き継ぎ、地域に根差した事業を推進していけるよう精一杯努めて参りたいと思います。皆様には、引き続きのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年度 高校生建設業就業促進 事業報告



企画政策委員会
副委員長 斎藤 直樹

高校生建設業就業促進事業は、建設

業界における人材不足・豊富な知識や経験を持つ熟練世代の高齢化を背景

に、若手人材の就業促進・育成を目的

として平成27年度より「若手人材就業

促進事業」として実施しております。

本年度も「魅力ある建設業」を広くPR

するために次の活動を行いました。

① 鶴岡工業高等学校建築科2年生と

職場体験学習及び意見交換会等の

実施

② 高校生及び中学生用のパンフ

レットの配布

③ YouTubeチャンネルの開設

動画で見る建設業のいろいろ「コン

クリート打設編」の作成・パンフレッ

ト配布

高校生との職場体験学習及び意見交換会は令和4年10月28日に鶴岡工業高

等学校2年生34名の生徒と行いま

した。当日は、午前中に鶴工敷地内で

トータルステーションを用いた測量

実習を行いました。青年部員指導の

もと測量機器の据付・計測方法につ

いて悪戦苦闘しながらも生徒全員が

体験することができました。

測量学習終了後は、鶴岡市一般廃棄

物最終処分場付帯施設新築工事と鶴岡

市一般廃棄物最終処分場の施設見学を

行いました。施設見学においては、鶴

岡市職員による説明を受け、普段立ち

入ることができない場所であることも

あり、生徒からの質問なども多く楽し

んでいる印象を受けました。

午後からは、「若手就業促進者から



動画で見る

建設業のいろいろ。

コンクリート打設編

【コンクリートで階段をつくる様子を紹介します】

完成まで

【コンクリートの製造】

製造工場にコンクリートの打設日時・打設場所・コンクリート配合・数量について連絡し出荷してもらいます。コンクリートの配合は呼び強度・スランプ・粗骨材の最大寸法・セメントの種類などを言います。

★ケークを作り例えと…

生クリームを材料をボールに入れて…



【コンクリートの品質確認】

コンクリートは打込み前に規定の品質（スランプ・空気量・単位水量など）を満足しているか確認し試験に合格してから使用します。

好みの硬さになるまでよく混ぜます。



【コンクリートの打込み、締め固め】

品質確認後、コンクリートを打込みます。打込みや締め固め方法については細かい規定があり、気温・湿度・作業人数などもコンクリート打設においては重要です。

スポンジに生クリームを塗っていきます。



【コンクリートの仕上げ】

今回の紹介動画は観覧席と階段を施工します。観覧席は座りやすい仕上がり（金歯仕上げ、ツルツルした感じ）とし、階段は滑りにくい仕上がり（剛毛引き仕上げ、ザラザラした感じ）にします。

飾り付けをして…



【完成】

今回の観覧席は幅36mと広く、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを参考とした基準となっており、ゆったりとくつろげる構造となっています。是非ご利用ください。

完成です。



動画で見る



スマホやタブレットで下のQRコードを読み取ると動画を再生できます。



のメッセージ」を題材に山形県職員・青年部現役技術者から講話をして頂き、最後に高校生と若手技術者との意見交換会という内容で行いました。特に、若手技術者との意見交換会は就職や進学に対して不安を抱えていることや聞きたいことに対し、青年部員が体験談を交えながら討議を行い、後のアンケート結果のとおり高い評価を頂きました。

建設業は、地域の守り手として必要不可欠な産業です。建設業が持続的にその役割を果たしていくためには、担い手の確保・育成、働き方改革が喫緊の課題であります。毎年実施している就業促進事業を通じて「魅力ある建設業」をもっとPRして地元建設業の活性化に繋がりたいと思います。

最後に、本事業に対して御協力頂いた鶴岡工業高等学校建築科の皆様をはじめ、山形県庄内総合支庁の皆様ありがとうございました。



令和4年度 河川愛護活動 事業報告



地域貢献委員会
副委員長 菅 健太

山形県建設業協会鶴岡支部青年部では、令和4年6月14日に『山形県ふるさとの川 愛護活動支援事業』を鶴岡市友江町内の大山川で行いました。今年度も国道112号の高館橋から上流



の大山橋までの約800m区間での活動となりました。

例年は6月5日の大山犬祭り前に行っている事業であります。コロナ感染状況をふまえ、また、今年は大山小学校の3年生の皆さんと合同でゴミ拾いを行うこととなり、若干時期をずらすことになりました。当日は梅雨入り前の好天にも恵まれ活動中は汗をかくほどでした。

午前中に当青年部30名が草刈り機械を背負い、2班に分かれて河川敷の草刈りを行いました。場所によっては草木が背丈よりも伸びており、お互いに声を掛け合い一定の距離を保ちながら作業を行いました。作業中はたくさん汗をかくので、熱中症にも気をつけてこまめに休憩と水分補給を行い、安全に配慮しながらの活動となりました。

午後からは、大山小学校3年生の児童56名と先生方、青年部との合同で、草刈りが完了した同じ河川敷でゴミ拾い活動を行いました。近年、毛虫の大量発生などによる虫刺症やコロナウイルス感染の防止のため中止していましたが、6年ぶりに合同で行うことができました。今年は久しぶりのゴミ拾いだったこともあり、たくさん回収することができました。

児童の皆さんにとって、日頃通学などで目にしている身近な川が綺麗になり貴重な経験になったことと思います。また、我々も久しぶりに小学生の元気な姿が見られて童心に帰ったような交流となりました。



依然コロナ禍での活動ではありませんでしたが、改めて地域の美化活動の大切さと部員相互や地域の方々とのつながりを大切にしたいと再認識することができました。最後に、この事業の活動に際しまして、地域の皆様方、大山小学校様、関係各位様から、たくさんのご協力を頂き、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今後とも指導の程よろしくお願いいたします。



令和4年度

鶴岡公園ボランティア活動 事業報告



地域貢献委員会

委員長 佐藤 直

毎年実施している「鶴岡公園ボランティア活動」を令和4年7月25日に実施しました。今年で、第20回目となる青年部としても長く活動を行っている事業です。

鶴岡市都市計画課と鶴岡市支部青年



部にて打合せをし、地元高校の鶴岡工業高校、鶴岡中央高校の生徒と鶴岡公園の美化活動を行う事業です。

近年は、コロナ感染症のまん延により、高校生との合同での活動ができずにいました。

しかし、少しずつではありますが、前のように活動をしていこうとの動きもでてきて、高校生と活動を行うことができました。

当日は、青年部28名、鶴岡工業高校、鶴岡中央高校約90名、鶴岡市都市計画課の方々と合計120名と大勢での活動となりました。

人数も多くいることから、作業内容も多くのご協力することができました。菖蒲園付近八橋四阿塗装、参道石畳洗浄、北広場園路整備、花壇・参道除草、こもれび広場洗浄、菖蒲園脇池浚

渫の6項目です。

各作業のリーダーとして青年部24名、高校生1020名に分かれての作業となりました。これまでもずっと行ってきた菖蒲園脇池浚渫については、重機も使用しての作業なので、安全を考えて、青年部員だけで行いました。各作業ともに青年部員と高校生が話をしながら、協力し合い楽しく活動できました。

今年は、酒井家庄内入部400年記念事業があるなど、鶴岡を訪れる人も多くなります。

鶴岡の代表的な公園の鶴岡公園をきれいにして、迎えられる手伝いをするのができて嬉しく思います。

天気にも恵まれて、各自熱中症にならないように、水分補給、休憩をこまめに取りながらの作業となり、ケガなどもなく終えることができました。

最後に活動に対して事前の準備から当日のご指導までご協力いただきました鶴岡市都市計画課の職員の方々はじめ関係各位に心より感謝申し上げます。これからも、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。



令和4年度

高校生現場見学会

事業報告



企画政策委員会

委員長 佐藤 勝隆

令和4年度もコロナ禍の開催となりましたが山形県建設業協会鶴岡支部青年部の「高校生現場見学会」を9月9日に催行することができました。

本事業は、山形県立鶴岡工業高等学校建築科1年生を施工中の工事現場に



招いて実施しております。本年度は、山形県立鶴岡工業高等学校から建築科1年生の生徒36名・引率教員2名、青年部から21名が参加して合計59名で鶴岡建設㈱のオリエンタルモーター鶴岡中央事業所1棟改築工事・㈱佐藤工務の(仮称)株式会社鶴岡ダイハツ本社新築工事・㈱石庄建設の宝田マンション新築工事・㈱山田工務店の大沢地区農村地域防災減災事業2工区の見学を行いました。

本事業の目的は、将来、土木・建築等の職業に携わることを目指して勉強している高校生に工事現場の見学を通して技術革新の進展の直接体験や建設業の地域貢献に対する理解を深めてもらうことです。また、今回は、特に建築現場の見学に注力し、施工工程がイメージしやすいようにスケジュールを

組みました。見学会終了後に記入してもらった生徒のアンケートには「基礎杭打設作業↓躯体作業↓外構作業という建物が完成するまでの一連の流れがわかった」「高所で作業している姿がカッコイイ」「本や教科書とスケールが違う」「構造物を支える杭・柱の偉大さがわかった」等の感想が寄せられたことや建設業は地域社会の発展に貢献しているかの問いには全生徒が「そう思う」と回答していたことから本事業の目的は達成できたと考えております。「進路の参考になった」と回答した生徒も100%だったため有意義な時間を過ごせてもらえたと思いますし、今後も現場見学会を継続していくモチベーションアップにもなっております。

末尾になりますが、本事業の成功のために協力頂いた山形県立鶴岡工業高等学校生徒・教職員の皆様、ご多忙の現場に受入れてくださった会員企業・現場担当者の皆様、建設業協会鶴岡支部の役員・部員の皆様に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

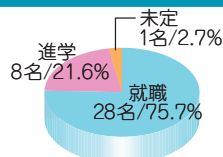


アンケート結果について

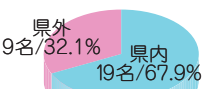
2 年 生

1 あなたの進路について

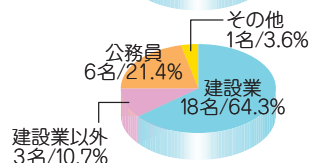
就職ですか進学ですか
(回答数：37名)



就職は県内・県外
どちらを希望しますか
(回答数：28名)

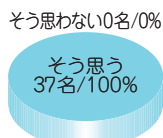


どんな職業を
希望しますか
(回答数：28名)

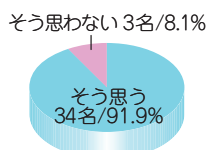


2 建設業についてどんなイメージを持っていますか

建設業は、地域社会の発展
に貢献していると思いま
すか (回答数：37名)

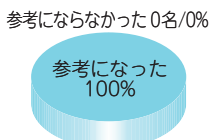


建設業は、自分の能力を活
かすことのできる魅力的な
仕事だと思いますか
(回答数：37名)

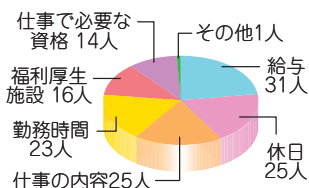


3 高校生現場見学会について

今回の高校生現場見学会
は進路の参考になりました
か (回答数：37名)



4 建設会社に関する 情報として、どん なことを知りたい ですか



5 現場見学会を終えての感想・要望

〔感想〕

- ・自分と違う考えをきくことができて良かった
- ・都会と田舎の違い、メリット、デメリットがわかった
- ・高校生のうちに取れる資格は今のうちに取りたい
- ・返事や挨拶などコミュニケーション能力が大切だと思った
- ・成果が目に見える、地図に残るととてもやりがいのある仕事だと感じた
- ・設計・大工・職人等たくさんの職種があることがわかった
- ・光波を使用した測量実習が良かった

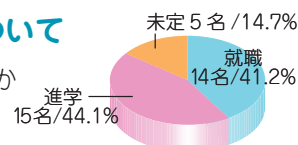
〔要望〕

- ・自分の後輩たちにも体験して欲しい

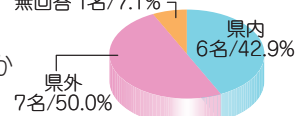
1 年 生

1 あなたの進路について

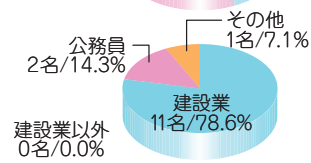
就職ですか進学ですか
(回答数：34名)



就職は県内・県外
どちらを希望しますか
(回答数：14名)

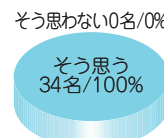


どんな職業を
希望しますか
(回答数：14名)

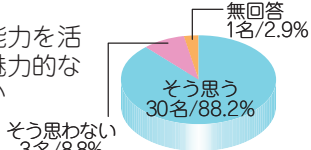


2 建設業についてどんなイメージを持っていますか

建設業は、地域社会の発展
に貢献していると思いま
すか (回答数：34名)

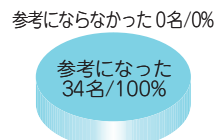


建設業は、自分の能力を活
かすことのできる魅力的な
仕事だと思いますか
(回答数：34名)

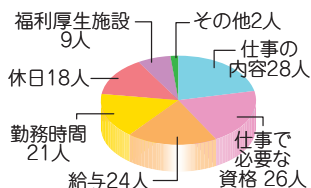


3 高校生現場見学会について

今回の高校生現場見学会
は進路の参考になりました
か (回答数：34名)



4 建設会社に関する 情報として、どん なことを知りたい ですか



5 現場見学会を終えての感想・要望

〔感想〕

- ・普段は聞けないような話を聞くことができてよかった
- ・鉄筋の型枠部分へ上ることができてとても貴重な経験ができた
- ・未完成のマンションに入ったり骨組みに上ったりできて勉強になった
- ・授業を受けるだけでは絶対に得られない経験ができた
- ・大きな危険と隣り合わせで作業しなければならない
- ・みんなが使用するものなので責任を持ってやらなければいけない
- ・質問に丁寧に答えてもらえてわからないことがわかった
- ・建物ができるまでの一連の流れを知れた
- ・規模の大きさに驚いた
- ・将来の就職・進路にとっても役立つ話が聞けた

〔要望〕

- ・雨の音で説明を聞き逃した

令和4年度

研修視察事業報告

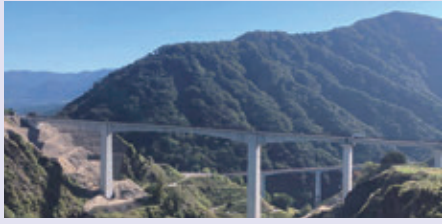


技術研修委員会

副委員長 佐藤 武蔵

令和4年度、建設業協会青年部は熊本県にある新阿曾大橋の研修視察に行きました。

新阿曾大橋は2016年の熊本地震で崩落した阿蘇大橋に代わり、建設が進められた場所から600m下流の急峻な峡谷に国道57号線沿いの南阿蘇村立野と、同村河陽をつなぐ全長525mの橋が架橋されました。複数の橋脚と上部の橋桁を一体化させ、大口径深礎最大径16m、橋脚最大



高さ97m、最大支間長165mと、PC3径間連続ラーメン箱桁橋としては国内有数の規模を誇るそうです。特に地震などの揺れに強いのが特徴で、歩道も設置され、歩いて渡ることもできます。

また、橋のたもとには展望所もあり、

展望スペースからは、長陽大橋や白川第一橋梁（南阿蘇鉄道）などを眼下に望むことができました。

地震で寸断されていた熊本市内と南阿蘇村とを結ぶ市民生活の重要なインフラであり、阿蘇への観光ルートでもある主要アクセスルートの為、早期の完成が求められておりました。

その為に以下の施工を実現されたようです。

①施工現場は急峻な地形で年間を通して吹き渡る強風対策として、雨風の影響を受けにくく、急斜面でも大量の資機材を運搬できるインクラインを両岸に整備。最大積載量60tもの巨大インクラインの設置により、厳しい条件下での安全かつ効率的な資機材運搬を実現。

②橋脚の施工には、作業足場と型枠を一体化させたユニットを油圧駆動装置で上昇させるACSセルフクライミングシステム工法を採用。従来工法にくらべて、足場の増設やクレーンによる型枠の揚重作業が削減できたため、スピーディーな施工はもとより、作業の省力化、安全性の向上を実現。

③橋桁の片持ち張出架設には、通常の約3

倍の容量（6000kN・m（キロニュートン・メートル））を有する超大型の移動作業車を導入したことにより、順次張り出していく橋桁ブロックを大型化し、ブロック数を削減することを実現。

④昼夜で施工を行い、社員のシフトスケジュールを作成し、業務効率と休暇取得を両立。また働き方改革に注力しながら、365日中351日稼働を実現。

これらの徹底した合理化施工と多彩な技術・工夫によって、標準工期に比べて1年4カ月短縮され2021年3月7日に早期供用を実現し、今後の市民生活の利便性の向上、さらなる観光の活性化が期待されます。

私達が従事する建設業には3つの役割があります。「暮らしを創る」「人の命を守る」「経済を支える」です。

今回の研修で改めて社会的使命を再確認する事が出来ました。

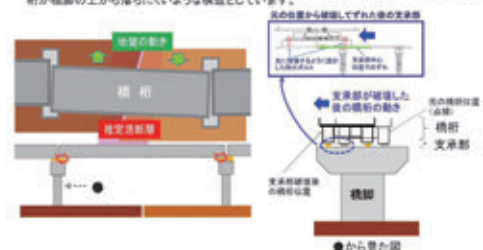
今後も新技術を含むインフラ整備に関わる技術研修に際し、委員会を通じて注力していきます。建設業の技術力の研鑽、業界の魅力発信に努めてまいりたいと思います。

最後に支部長をはじめとする親会のみなさまのご理解ご支援を頂き、深く感謝いたします。



新層の動きに力に抵抗せず“受け流す”構造計画

- 新阿蘇大橋は、右横ずれが推定される活断層（推定活断層）を跨ぐことから、予測が困難で不確実性が高い断層の動きに対して、将来大規模地震が起きたとしても橋全体が崩壊しにくくなるような工夫をしています。
- 道路を作る位置及び橋の構造は、断層の位置や向きに対してできるだけ直交するような位置とすることや、橋全体を3つの区間に分けて断層を跨ぐ区間の橋を独立させることで、断層が動いたときに橋が影響を受ける範囲を限定するようにしています。
- 断層を跨ぐ区間では、断層の動きにより2つの橋脚が異なる方向に移動した場合には、橋桁や橋脚より先に支束部が破壊するように設計しています。これにより、橋桁と橋脚の間の地震力の伝達を遮断します。そのうえで、橋脚の上部の橋を広くし、支束部が破壊した後も橋桁が橋脚の上から落ちにくいような構造としています。



クライミングシステム工法



下方から足場を立ち上げる必要がない。高所で足場の組立が不要となるため、安全な施工が可能である。

一般的な工法



一般的な橋脚施工は地面から足場を組立てる。その足場を利用して、橋脚の施工を行う。

令和4年度 就職支援講座 しごとセミナー2023 事業報告



青年部
副部長 佐藤 義将

鶴岡市、公益財団法人庄内地域産業振興センター主催による「しごとセミナー2023」が高校2年生を対象として今年の3月3日・13日に開催されました。2回に渡る開催で鶴岡田川地区の高校6校より計137名の生徒達が参加してくれました。

この事業は、地元企業6業種（介護福祉、建設業、宿泊業、販売業、製造業）による仕事の講話を行い、地元企業に対する就職志向の向上につなげる事業でもあります。

建設業協会青年部からは、「建設のしごと」について講話してきました。「建設のしごと」と言う事で、現在の建設業をとりまく状況として担い手不足が懸念されています。この状況を少しでも改善できるようにと建設業の魅力・やりがいを発表してきました。建設の仕事については「街をつくり、人々の生活を支える仕事」また、その魅力として「同じものは作らない 唯一無二の物をお客様に提

供すること」など我々建設の仕事でしか経験できないことをアピールすると共に、建設の仕事は地図に残り、何十年も先まで地域の皆様に使われて行くものを作っていく魅力ある仕事だと伝えさせて頂きました。更には自然災害が起った時は一早く現場へ行き復旧作業を行う事など、我々建設業は地域にとつて欠かせない、必要とされる仕事だと発表させて頂きました。

最後に今回の「しごとセミナー」を通じて、少しでも建設業に興味を持ってもらえるきっかけになり、これからの就職活動に繋がることを願っております。



令和4年度 総務交流委員会 事業報告



総務交流委員会
委員長 榎木 晴紀

本年度の総務交流委員会は、定時総会並びに歓送迎会、Webページの更新、臨時総会、新年会といった事業を主に活動してまいりました。残念ながら他支部との貴重な意見交換の場である酒田支部との交流会、また水辺で乾杯は新型コロナウイルス感染者の激増した時期とかさなり、中止の運びとなりました。

定時総会においては予算及び事業内容について審議し、また歓送迎会では3名の卒業生を送り出すとともに4名の新入部員を迎え会員数は31社となり青年部組織がさらに増強されました。

臨時総会においては新年度組織図に加え、若手就業者の確保の難しさや高齢化などを考慮して定年の引き上げについても審議を行い、47歳まで青年部活動を行えるようになりました。新年会も例年以上に盛り上がったのではないかと思います。

私自身まだまだ未熟で至らぬ点多かったと思いますが、1年間総務交流委員会として滞りなく活動を行えたのも、部長はじめ皆様方の指導のおかげと心より感謝申し上げます。



令和4年度 卒業の言葉

卒業にあたり



山田 和博

青年部が設立して30年間積み上げてきた歴史と伝統のある鶴岡支部青年部で、平成22年4月に入部以来12年にわたり、沢山の方に出会い様々な活動を通して、ご指導を頂きながら良い時間を過ごさせて頂きましたことに対し、心より感謝申し上げます。入部当初は、地元鶴岡に帰ってきてまだ日が浅かったため、建設関係の方との交流もほとんどなく不安な中での活動となっておりました。

しかしながら大山川の河川アダプト、鶴岡公園の清掃ボランティアでは、小学生から高校生はじめ青年部員と一緒に汗をかきながら、美化活動などに取り組み交流の中で、皆さんと達成感を共有することが出来、満面の笑みを見ることが出来たことで、入部して良かったなど心から思いました。また建設業界の担い手不足を少しでも打開するため、高校生現場見学会、高校生建設就業促進事業などを毎年継続して行い建設業の重要性・やりがい・魅力を高校生と和気あいあいと交流出来た事も良い経験になりました。令和4年度には青年部18代目部長の任務を仰せつかりました。コロナウィルス感染の終息の兆しが見えない中ではありましたが、五十嵐大輔前部長が2年間のコロナウィルス感染対策を万全にしながら積極的に各事業を遂行する姿を参考にしながら令和4年度事業として、大山小学校3年生56名との河川のゴミ拾いを5年ぶりに開催することが出来ましたし、公園ボランティアも過去最高の90名の学

卒業にあたり



伊藤 剛

生と青年部28名で鶴岡公園美化活動が無事楽しく終えることが出来、コロナウィルス感染前の行事と同等の運営で終えることが出来ました。これもひとえに全青年部員が「1チーム」でやり遂げた結果であり感謝申し上げます。現役部員の皆様には、これからも活動を通して建設業の「魅力」「重要性」を余すことなく発信して頂き、地域に根差した社会貢献活動を期待しております!! 12年間大変お世話になりました、誠にありがとうございました。

平成30年度に青年部に入り5年間青年部で活動させて頂きました。当初は右も左も分からない状況でしたが、会員の皆様方に優しく接していただき大変ありがとうございました。途中コロナウィルスの騒ぎがあり青年部の活動が制限され、特に歴代の役員の皆様方は、世の中の状況がこくくと変わるなか判断の難しい状況で、青年部活動の舵取りをしていただき、大変なご苦労があったと思ひ皆様には尊敬と感謝の念でいっぱいです。わたくし自身はあつという間の5年間でしたが、今まで同年代の他の建設会社の方々と交流するという機会がなかったの、いろいろな刺激を受けてとてもいい経験をさせて頂きました。これからご縁をいただいた、青年部の皆様方との交流を大切にしていきたいと思っています。

活動を振り返って



佐藤 剛

私が入部したのは3年前、世の中が未曾有のウィルスとの共存を決意した頃でした。

青年部としても、これまで続けてきた年間行事や活動をどう続けていくべきか手探りで向き合う事となり、活動内容の精査や節目となる30周年記念事業など方針を見出す役員の皆さまは例年以上に大変だった事かと思ひます。入部する前は、正直なところ「仕事以外にさせられる面倒くさい事」と思っていました。しかし実際にその活動を通じて、地域への思いや、この年代だからこそできる活動や交流などから素晴らしい組織だなと実感することができました。特にこの3年間は大々的な酒席なども制限を受ける中、見返りなど無くとも活動していく姿勢が印象的でした。

また、昨今の頻発する自然災害などで地元建設業が果たす役割は大きいと思います。そういった場合もここで培った地域を思う心や人との繋がりが役に立つのではと思いました。イレギュラーな3年間だったため、心残りはいくつかありますが、これからも

青年部 卒業の言葉



山口 章

青年部の皆さまにはこの経験を糧にして益々のご活躍を期待しております。短い間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございます。

令和2年度より青年部に入部して以来、僅か3年間と短い期間でありましたが、この度卒業を迎える事となりました。入部当初はコロナウィルスが流行していた事もあり、様々な行事が中止となりました。中々皆さんと顔を合わせる事もなく名前も分からない人がたくさんいましたが、河川愛護活動や高校生建設工事見学会・高校生建設就業促進事業・鶴岡公園ボランティア活動等の行事には出来るだけ参加し、たくさんの人と交流できました。部員の皆さんはとても優しく、面白くて毎回来しく参加させて頂きました。今年からはコロナ禍も徐々に解消され、青年部の活動が今まで以上に活発に行われる事を願っております。

青年部の活動を通じて、普段は経験する事ない貴重な体験をしたり、他の建設業者の方との繋がりが出来た事が一番の財産だと思っています。高校生の生の意見を聞いたり、工事現場見学では土木の橋や高速道路など建築工事では中々見る事がない仮設設備や重機などがあり、とても勉強になりました。

最後になりましたが、青年部の今後益々のご発展と部員の皆様のご活躍を心より期待して卒業の言葉とさせて頂きます。3年間本当にありがとうございました。

令和5年度 入部の言葉

青年部入部の言葉



㈱伊藤組

高梨 真人

今年度より、山形県建設業協会鶴岡支部青年部に入会いたしました株式会社伊藤組の高梨真人と申します。弊社に入社し建設業にたずさわり20年ほど経過しますが、同業とはいえ他社の方々との交流はほとんどなく、入会にあたり不安でありましたが、先日行われた定時総会では皆様に温かく迎えて頂きありがとうございました。

青年部の活動につきましては過去の広報誌を拝見し、同僚からも聞いておりますが、ボランティア活動をはじめ地元高校生との交流等、様々な活動を通し地域貢献に取り組み姿勢に感銘を受けております。私も青年部の一員となりましたので、様々な活動に励むと共に皆様との交流を楽しみにしております。

私自身まだまだ未熟者であります。先輩の皆様との交流を通し、建設技術や建設業等について経験や情報をご教示頂き、自分自身の成長に努めると共に、地元建設業に貢献できるように努めていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

青年部入部の言葉



㈱佐藤組

小野寺 清昭

今年度より建設業協会鶴岡支部青年部に入部させて頂く事になりました株式会社佐藤組の小野寺清昭と申します。

建設業に携わり20年以上、建築工事の現場に従事してきました。青年部の先輩方には現場でお世話になった方、学校時代の先輩や後輩、同級生もおり、また先日の総会で初めてご挨拶をさせて頂いた方もおります。

青年部の活動や交流会を通じて、皆様との親睦を深め、また今までは違った分野からの情報の取得や経験を積ませて頂き、自身のスキルアップへ繋げていきたいと思っております。

ここ数年、新型コロナウイルスの影響で青年部としての活動に支障があったと伺いましたが、本年度からは制約も解除される中で元の活動に戻れるかと思っております。地域貢献活動や高校生の現場見学等、様々な活動に参加し、鶴岡地区の建設業の発展に少しでも貢献できるよう、微力ではありますが頑張らせて頂きたいと思っております。

御指導・御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

青年部入部の言葉



㈱山口工務店

阿部 寛峰

今年度より建設業協会鶴岡支部青年部に入部させて頂く事になりました株式会社山口工務店の阿部寛峰と申します。

私は高等学校を卒業して以来、主に建築工事に従事してきました。20年以上携わっておりますが、これまで同業他社の皆様と交流できる機会があまりありませんでした。

青年部で活動させて頂くことにより、部員の皆様との交流を通して建築工事に限らず自分の知らない分野や、様々な考え方を勉強し、自分自身もスキルアップできればと楽しみに思っております。

その一方で、青年部の活動について日頃の業務と両立しながらどの程度参加できるのか、ご迷惑をおかけしないかなど不安があります。

できる限り活動に参加し、親睦を深めながら青年部活動ができればと思っております。

至らぬ点があるとは思いますが地元建設業と地域の発展の為、貢献できるような頑張りますので、先輩の皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

青年部入部の言葉



㈱山田工務店

長南 広之

今年度より山形県建設業協会鶴岡支部青年部に入部させていただくことになりました㈱山田工務店の長南広之と申します。

青年部入部にあたって、自分自身のスキルアップとともに、これまで交流の機会が少なかった方々ともこれから活動を通して親睦を深めていきたいなと思っております。

先日の定時総会に参加し、地域との交流を通して若者の人員確保に力を入れていると強く感じました。私自身、高校時代に青年部の皆様と一緒に鶴岡公園ボランティア活動を行っていたので、その時に声をかけてもらったのが建設業に入るきっかけになりましたので、私も同じように先輩たちには倣い、これからの若い人たちが建設業に興味を持ち、入るきっかけをつくるよう積極的に活動していきたいと思っております。

最後に、先輩方皆様と一緒に建設業を盛り上げていけることを大変うれしく存じます。

若輩者のため、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。



現場紹介

鶴岡市
加茂コミュニティ防災センター
移転改築工事



佐藤工務・鈴木工務店
特定建設工事共同企業体

(株) 佐藤工務

現場代理人

佐藤 大樹

本工事は、鶴岡市加茂地区コミュニティセンターの建物移転した工事になります。建設場所は、既設コミュニティセンターより高館山側へ移動となり、鶴岡市加茂水族館第二駐車場内(旧加茂中学校跡地)です。地元に着した建物であり尚且つ、災害時の防災拠点となる防災センター施設環境の整備を図り鶴岡市様が発注した工事となっています。

この度の建設においては、加茂地区より30年近く要望されており念願の建物完成と伺いました。

工事概要は、鉄筋コンクリート造・地上1階建て、延べ床面積887.58㎡、最高高さ9.626mの建物です。事務室・研修室・会議室・調理実習室・交流スペース・大ホール・防災資機材庫といった平面レイアウトになっています。外装は屋根瓦葺、外壁RC面塗材、鶴岡地場産木材の木羽目板張り、内装は鋼製床組十下地合板十カバ無垢フローリング、長尺塩ビシート、壁木胴縁十石膏ボ-



下地+ビニルクロス、腰部木杉羽目板張り、天井LGS下地+化粧石膏ボードになっております。

工期は令和3年7月7日～令和4年7月29日迄の、13カ月間の工事でした。新型コロナウイルス感染の終息の兆しが見えない中、衛生面についても現場環境への配慮も必要とした時期でもありました。

当現場は、平屋建て・切妻屋根形状の設計でした。勾配スラブ付躯体工事は、鉄筋工、コンクリート打設工、型枠支保工計画等も十分検討を行いました。マスター工程を決めるにあたり躯体工事完了がクリティカルになると考え、工程計画を立案・協議しました。冬季間1月2月の降雪、0℃を下回る環境、沿岸地域特有の北西風・地吹雪の影響を受ける躯体工事は大変難儀することが予想されました。冬季間を避け計画した期間は5カ月と厳しい現状でした。また内外装工事、別途電気設備・機械設備工事との関連も考慮し、猶予

あるものとするには、令和3年8月～12月まで躯体工事完了を達成する必要がありました。鶴岡市様より工事契約当初から4週8休の工程計画について可能か打診があったことを鮮明に記憶しています。躯体工事において実施した結果は、概ね4週4休となりましたが、最終躯体コン打設完成が令和3年12月24日とすることが出来ました。次工程に移行する整備期間・RC躯体養生期間も確保でき、且つ十分な仕上施工期間を取ることができ、内外装仕上げ工事においては4週8休の工程計画が可能となりました。

以上の通り、躯体工事での施工期間と現場休業体制についてピックアップしご紹介させて頂きます。工事期間中には、地元加茂地区の「りっしょうこども園」園児の現場見学会や、山形県建設業協会鶴岡支部青年部主催の高校生見学会も実施されました。

鶴岡市加茂地区自治振興会のご担当者からは完成引

渡し後に、多方面での建物活用がされていると伺っております。新たなコミュニケーション防災センターを基点とし地域発展に貢献できたことは大変貴重な経験となりました。

最後に、当工事は無事故・無災害を達成し竣工を迎えることが出来、工事関係者・施工協力業者の皆様より御協力を賜り、大変感謝致します。



